



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代日本のカルト問題
Author(s)	櫻井, 義秀; Sakurai, Yoshihide
Description	北海道警察教養セミナー講演、2006年12月13日
Issue Date	2006
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/17108
Type	lecture
File Information	hokkaido.pdf



現代日本のカルト問題

北海道大学
櫻井義秀

構成

- 1 カルト問題とは何か
- 2 多様なカルト問題
 - 大学生 キャンパス内勧誘
 - 主婦・中高年 霊感商法
 - 若者・女性 スピリチュアリティ・ブーム
- 3 世代・社会層と宗教問題
 - 聖神中央教会における虐待
 - 社会各層における自衛策とサポート

カルト/マインド・コントロールとは

- カルト(cult)元来「礼拝・祭祀」を意味した
- 1新宗教、2異端宗教、3社会問題化する宗教
- マインド・コントロール(mind-control) 社会的影響力・説得の心理学から発展
- 例: 返報性、コミットメントと一貫性、社会的証明、好意、権威、稀少性

北海道大学2001,2006学生生活実態調査
無作為抽出、抽出率(学部生20%、大学院生50%)
回収率、2001,54%(1,263人)、2006,46%(1,316人)

カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘の有無	それを受けて嫌な思いをしたことがある	そのような経験はない。	他人が勧誘を受けて困っているのを見たり、聞いたたりした。	そのような経験はない。
2001	21.9%	78.1%	27.8%	72.2%
2006	25.9%	74.1%	36.7%	63.3%

キャンパス内勧誘のマニュアル(某仏教系団体)

- ①自己紹介
- ②ゼミのテーマ
- 「〇〇君、結局、何のために、勉強して、働いて生きてゆくのかっていう生きる目的をハッキリさせようっていうのがゼミのテーマなんだよね。これって大事だと思うかな。そうだよね。有難う。だから、これが大事だって思う人に、今、チャレンジ入部を勧めているんだよ。〇〇君だって、やっぱり大学に入ったら何か新しいことにチャレンジして、4年間充実させようって思うでしょう。誰でもみんなそう思っているんだけど、実際卒業する時には、何にも残らなかったなと言う人が結構多いんだよね。」
- 「なぜかっていうと、何に打ち込めばいいかハッキリしていないからじゃないかな。だから、〇〇君も〇〇大生になったら分かって思うけど実際キャンパスで一番良く聞く言葉は『オイ、〇〇。なんか面白いことないか』『つまんねーよ』『だりーな』などなど。」

- ③入部の勧め
- 「だから、まず最初に一番大事な目的をハッキリさせようっていうことなんだよ。ほら、〇〇君だって、マラソンで走る時、あそこがゴールだとハッキリしててこそ頑張ってるのが出来るでしょ。反対に『〇〇君、走れ』って、突然誰かに言われたらどうする。困っちゃうでしょ。一体どこまで走ればいいのか。必ず聞くでしょ。もし『ハイ』って走り出す人がいたらどう思う。それこそ変だよ。」
- (一番大事なクロージング)
- 「だから、ちょうどゼミのテーマはマラソンのゴールみたいなもので一番大事なもののなんだよ。人生の決勝点。これがハッキリすれば、大学4年間もひいては人生そのものが充実すること間違いなしだよ。やったね。(笑い)」

- ④聞くことの大切さを訴える
- 「聞けば『なるほど！ザ・ワールド』って分かることでも聞かなかつたら一生分からないことって結構あるんだよね。だから聞くことって大事でしょ。これまでの〇〇君の知識もみんな親御さんとか学校の先生に教えてもらったことばかりじゃないかな。自分で発見した定理とか真理がある人の方が少ないでしょ。」
- ⑤わかりやすさの強調
- 「分かりやすく話をするからこのゼミを続けて聞けば、答えがハッキリするんだよ。」

- ⑥人生について考え、語ることはネクラではない
- 「『人生』っていう言葉を聞くと『難しい』『暗い』って思う人がいるんだけど、なんで人生について考えると暗くなるのか。それはその人の人生そのものが暗いからじゃないかな。暗い人生なら考えると暗くなるのは当然。みんな本当は考えると暗くなるような人生を明るい人生に、つまらない人生を楽しい人生にしたいじゃないかな。」
- 「だけど、結局考えてもよく分からないしハッキリしないから、丁度腫れ物に触られるかのようにしているだけなんじゃない。だけど、そこにメスを入れて、これ一つ果たしたらいつ死んでも悔いなしって見えるような、生きてて良かったこの身になるために生きてきたんだって見えるような本当の人生の目的があって、それが完成できるから聞いてみようってということ

- ⑦急がず慌てず、しかし、約束はしっかりと
- 「今、この場で4年間続けるかどうかというのなら、初めて出会ったから無理じゃない。そうじゃなくて人生の一番大事なことをまずは続けて聞いてみないかっていうことなの。何事もスタートが肝心でしょ。」
- 「だから、ぼくらのサークルはフレッシュマン・セミナーで一通りの話が完結するからそこまでチャレンジ入部してみようってということなんだよね。」
- 「〇〇君宜しく！（握手）」

勧誘行為の問題点と大学の対応

- 少数者の思想・信条、学内における自治的活動に制限を加えるには相当の理由が要る。
- 第一に、サークル活動であれ、宗教活動であれ、学生の身分たる学業を圧迫するものであれば、学生に再考を促してしかなるべき。
- 第二に、勧誘の手法において被勧誘者に十分な情報の開示を怠り(正体を隠す)、情報提供の方法も承諾誘導の技術を駆使するような団体は、学生の自由な意志決定を阻害している。
- 第三に、大学教育の時期に特定の宗教的信条や人生観のみ教え込み、学生の視野と活動を一定の範囲に囲い込むことは、教育課程上ゆゆしき事態

統一教会による中高年女性の布教

- 1 手相・姓名判断
- 2 家系図診断：で家族の問題→婦人教養講座
- 3 各種講演会、カルチャーセンター
- 4 「心情解放カウンセリング」：「悪因縁」解消：多額の献金

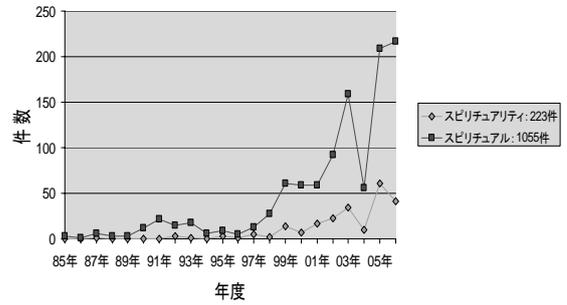
姓名判断に根拠は？

- 櫻(21) 井(4) 義(13) 秀(7)
 - 天格(21+4=25) 人格(4+13=17) 地格(13+7=20)
 - 総画(21+4+13+7=45)
 - 家庭運(4+13+7=24)
 - 社会運(21+4+13=38) 外格(21+7=28)
- 画数では大吉なし、吉11、24、25、45、
- 半吉17、34、38、凶20、大凶28である。

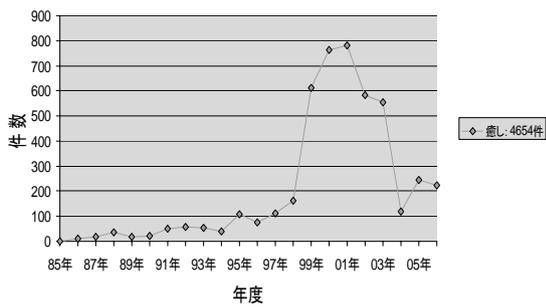
靈感商品の購入 なぜ 女性のライフコース



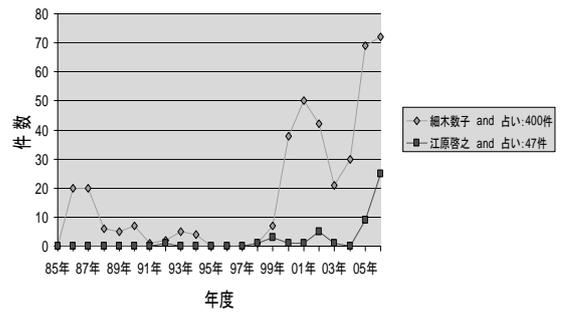
スピリチュアル・スピリチュアリティ



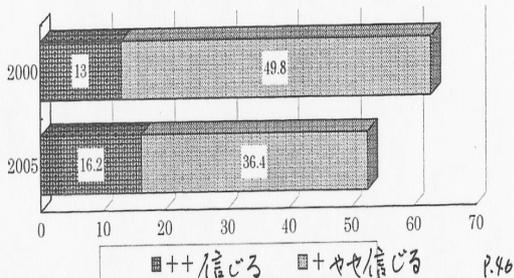
癒し



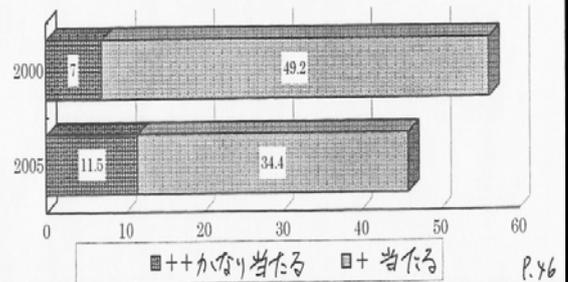
細木数子・占い／江原啓之・占い



グラフI-2v 血液型による性格判断(2000年と2005年)



グラフI-2u 姓名判断(2000年と2005年)



出店 類型	東京	札幌
レイキ・霊気・波動	16	5
パワーストーン	15	4
タロット・カード	21	2
健康機器・食品	7	12
オーラ写真	7	6
アロマテラピー・カラーセラピー	8	8
整体・マッサージ	4	13
各種リーディング	30	12
各種ヒーリング	27	14
各種チャネリング	14	4
各種グッズ	21	13
各種占い	9	5
コーチング・カウンセリング	0	5
その他	5	3
計	184	107

• 出店の傾向

- 東京すぴこん
- 2006/4/29
- 平野直子調査

- 札幌すぴこん
- 2006/7/15
- 櫻井義秀調査

リーディングによる自己の構築

- オーラ、守護霊、過去生による自分の語り直し
↓
- 機能的には心理分析と等価：抑圧からの解放/生きにくさを表現
↓
- スピリチュアルな物語→自己をつなぐ：確認
- 占い・癒しの弊害
- 因果論的誤解
- 気休めから本気に
↓
- 信奉者から指導者へ(消費者から起業家へ)
- 教育・医療・心理療法への無資格参入
- つながり/欲望の喚起

「可能性としての自分探し」から

- NHKの世論調査、1980年のなかば：「経済の豊かさ」→「心の豊かさ」を望む
- 1985年、男女雇用機会均等法：女性が職業を通して社会的自己実現
- 仕事は金を稼ぐ→自分らしさを表現するもの
- 1980-90 能力開発型宗教ブーム
- 阿含宗 桐山靖雄 1985『超脳思考をめざせ』
- オウム真理教 覚醒のステージ化
- 自己啓発セミナー

「不安と隣り合わせの自分探し」へ

- 2000年代 グローバル化/格差社会の時代
- チャンスを掴む人/動けない人、価値相対化
- 非正規雇用：正規雇用=1:2
- なにものにもなれない不安/すべり落ちる不安
- 1990年代後半より セラピー社会の癒し・スピリチュアリティ 探求へ
- 自己承認を得たい/カウンセラー志望

聖神中央教会の事件

- 1986年から京都市内の自宅で開拓伝道
- 1987年に宗教法人「聖神中央教会」
- 2000年に「聖神世界宣教会総会」
- 12都道府県に22教会、牧師57人、公称1300人の信者（サンデー毎日、05/04/24）
- 2005年4月6日、本名金保（パウロ永田）主管牧師、61、レイプ容疑で逮捕
- 2006年2月21日、京都地裁、懲役20年、金は控訴せず、3月8日に刑が確定

宗教的言説の語り方、語られる状況

- 第一に、金保の説教そのものにマインド・コントロール的要素を見いだすのは難しい
- 第二に、教職者含めて信者の教義的理解のレベルは高いとは言えない
- 第三に、パウロ永田の神格化（サタンと切り結ぶ主管牧師）があるのは事実として、そこから少女の性的虐待にストレートにつながるとは考えられない

児童虐待横浜裁判

- 2005年11月1日、横浜地方裁判所、250万円の損害賠償請求 小学校4年次児童
- ゲーム 牧師の殴打→夜驚症、睡眠障害、適応障害(精神科医の診断)
- 牧師は「俺はパウロ永田のコピーだ」「パウロ永田は神の代理人だ」 悪魔払い
- 原告:北九州→宝塚→横浜
- 被告:生育環境、21歳で回心

聖神中央教会の社会的基盤

- 信者の社会層から福音主義受容の基盤
→離婚、生活苦、病気「心臓病、アトピーが祈ることで解決されました」「脳障害による半身麻痺を克服して」
- 聖神中央教会が強調した善悪二元論の世界観、神の裁きを怖れる道徳、聖霊による癒し
→庶民の生活に根ざした信仰:福音主義・福音派の宣教基盤:格差社会を反映

	聖神中央教会	摂理	類似性
指導者	主管牧師 神の代理	総裁 再臨主	○
教え	神・サタン→墮落→最後の審判	神・サタン→墮落→救済	○
儀礼	聖霊充滿、悪霊拔除、とりなし	祈祷、合同結婚	△
入信	伝道、家族・地縁、ノルマ	偽装サークル、勧誘、ノルマ	△
回心	貧病争、生活支援	自己探求、ケア	×
社会層	青年・中高年、中下層	学生・青年、中上層	×

カルト問題の多様化と世代・社会層

- 世代
 - 若者 原理主義的宗教運動、スピリチュアリティ
 - 若年女性 スピリチュアリティ、セラピー
 - 中高年女性 霊感商法 代替療法
 - 高齢者 振り込め詐欺 墓石商法
- 社会層
 - 上層・富裕者 投資詐欺 一人暮らし 霊感商法
 - 中間層 セラピー、代替療法、新宗教
 - 下層 宗教共同体、カルト化した福音派教会

カルト問題の対策

- 1 カルト、詐欺、犯罪の実態を知らせる
 - カルト問題、宗教トラブルは民間団体、弁護士
 - 詐欺・犯罪は行政、司法、警察等の公的機関
 - 高校・大学が、カルト問題の啓発に努める
- 2 相談窓口と対策のネットワーク
 - 市民は窓口探して疲弊する
 - 警察、消費者センター、弁護士会、病院の連携
 - 宗教問題には宗教者の関与が必須
- 3 カルト問題はなくなならない だから自衛策